川崎信用金庫理事長賞

好きを続ける大切さ

東小倉小学校　６年生　内海　晴貴

僕は恐竜が好きです。恐竜には沢山の種類がいてそれぞれ沢山の特徴を持っています。そんな恐竜の可能性は文字通り無限大。まだまだ分かっていないこともあります。

現時点で恐竜は千種類以上いると言われていますが他にも発見されていない恐竜がいます。この先何十年、何百年、何千年たとうが恐竜のすべてを知ることはできません。なぜなら恐竜が生息していた二億三千万年前から絶滅した六千六百万年前までの約一億六千四百万年間の歳月は人類が一言で表せるようなものではないからです。でも終わりがないからこそ奥深くてロマンを感じるし、今何が眠っているのか想像するだけでも不思議で壮大な気分になれます。そんな恐竜に興味を持ったのは三歳くらいの頃、ＤＶＤ屋さんで買った映画ジュラシック・ワールド一作目のＤＶＤを見たときです。次々でてくる恐竜の迫力に目を奪われそこから恐竜好きになったのを覚えています。

そこからは恐竜の図鑑を沢山見漁ったり、博物館にも頻繁に行く様になりました。図鑑を開けば知らない恐竜や情報がたくさんあってそれを一つ一つ覚えていくのも楽しかったし、読めば読むほど引き込まれていくような気がしました。それに覚えるだけではなく自分の覚えたことを振り返るのも楽しいです。例えばこの恐竜はどんな経緯で覚えたのか、どの図鑑で調べたのかなど振り返る事で恐竜以外の自分の思い出も振り返る事ができます。もちろん恐竜をまた勉強し直す機会にもなります。そうやって細かいことでも少しずつ積み重ねていけばそれも一つの知識となり自分をレベルアップさせる材料になり得ます。

実際に自分はその積み重ねで何もなかったところから大きな知識を作ることができました。そう思ったきっかけが二つあります。一つ目は博物館に行ったとき知っている事が増えてきたことです。先日博物館に行ったときも知っている恐竜が沢山いたのを覚えています。そこまで恐竜のことを勉強していなかったときは知らない恐竜の名前しかなく、言っていることもよく分からなかったけどそこからある程度分かるようになりました。これは少しずつ恐竜の知識をつけ、恐竜を好きでい続けたおかげだと思うので単純に嬉しかったです。

二つ目は二年前に受けた恐竜学検定です。恐竜学検定は日本の第一線の恐竜学者たちが監修し、多くの企業や実行委員が開催している簡単に言えば様々な恐竜についての問題が出される試験のようなものです。初級と中級の二つがあり、自分は両方同じ日に受けました。両方とも合格を目指して公式ガイドブッ

クを買ってもらい毎日頑張って勉強しました。知っていることも少なからずあったけど中級はかなり深い知識を求められていて初めは合格できるか不安でした。それでも合格のため諦めずに続けていきました。すると段々ガイドブックに書いてあることを覚えていって問題を聞くだけで選択肢を聞かなくても答えられるようになりました。そして試験当日。まず初級のテストを受けました。初級は勉強する前から知っている知識がほとんどだったので迷いなくスラスラ解くことができました。解き終わるとこれはいけただろうという手応えがありました。そして一番の鬼門である中級のテストを受ける時間になりました。流石に中級となれば初級よりもかなり難しくなっていて分からない問題もあったけど勉強したことが出ると勉強は無駄じゃなかったんだなと実感することができました。それに不思議と試験中辛いと思った瞬間はありませんでした。最後までやりきるとなんとも言えない達成感が身を包みました。合格通知は試験が終わってからしばらくたった後にスマホで公開されます。合格発表がくるまで自分は生きた心地がしませんでした。さあ、そしてついに結果発表の時が来ました。合格ラインは初級・中級どちらも七十点以上です。ドキドキ・ワクワクしながら結果を開きました。結果は…なんと、どちらも合格することができました。初級九十九点、中級八十九点と合格ラインをかなり超えていたのもあって人生で一番嬉しかった瞬間と言っても過言ではないくらい嬉しかったのを覚えています。

恐竜について学び続けた経験から、どんなことも一つ一つ積み重ねることが大切だと分かりました。これからも好きなことを大切にしながら、学校生活や将来の夢に向かって成長していきたいです。